巻頭言

ヘルスデータサイエンス学会第4回学術集会のテーマは，「データサイエンス戦略で実現する知の共創：医療・健康・社会の変革を目指して」であった．「データサイエンス戦略」とは，データを収集して解析を行う過程における技術的手法の議論だけでは不十分であり，明確な目標を設定したうえで，実社会への貢献を意識した議論を行いたいという，我々の強い意志を反映した概念である．そのためには，設定した目標に向かって組織的・包括的・体系的な枠組みをどのように構築するか，データをどのような技術を用いて効率的に収集し，どのような解析手法を用いて有益な情報を引き出すかについて，徹底的に議論する必要がある．本学術集会では，全体として，そのような議論を行うことができた．また，菊池浩明先生（明治大学専任教授）による特別講演「ヘルスケアデータを安全に二次利用するプライバシー保護技術の現状と課題」については，デジタル空間におけるセキュリティとプライバシー保護の重要性を認識することができ，データサイエンス戦略を議論するうえで，たいへん有意義であった．

なお，第5回学術集会は2026年12月4～5日に名古屋で開催予定である（https://s-hds.org/）．テーマ「Principlesに基づくデータサイエンス戦略：確かな問いに，価値ある知見を」を掲げ，引き続きデータサイエンス戦略の議論を深めたいと考えている．多くの方々の参加を期待する．

手良向　聡
京都府立医科大学大学院医学研究科　教授
一般社団法人ヘルスデータサイエンス学会　代表理事
「臨床評価」編集委員